

史跡広島城跡の発掘調査等について

1 令和 6 年度の発掘調査（資料 2－2）

(1) 主な目的

天守台基礎部の状況を把握するとともに、本丸下段堆積層に関する所見を得る。

(2) 調査箇所

3 か所（天守台石垣北西隅、北東隅及び東側内堀石垣寄り部分）

(3) 主な成果

ア 天守台石垣基礎は北西隅と北東隅ともに、割石敷き上に築石を設置し構築されていた。

これまでの広島城跡に関連する調査で見られた、胴木上に基礎石を設置する形（例：内堀石垣の一部）や、根石外周に多量の捨石補強を施す形（例：外郭櫓台石垣）のいずれとも異なる。

イ 天守台石垣基礎の設置面（4b 層上面）は TP2.6m 前後、周辺現地表面から約 1.4m 下位に相当する。

ウ 石垣基礎の設置面からは、築石角を起点として東西方向・南北方向に直線的に延びると推測される石組遺構が確認された。

エ 堆積状況から戦後の火災整理層と考えられる、層中に多量の瓦片を含む層（1b 層）を確認した。1b 層の層厚は場所により異なるが約 20～60 cm を測る。

オ 自然科学分析の結果、確認した層序は、5 層（の下部）を除いて、いずれも土層への人の関与が窺われる結果となっており、本丸下段部の地形は、ある程度人為的に構築されたものであると推測される。

2 令和 7 年度の発掘調査等（資料 2－3）

令和 6 年度の調査結果を踏まえ、調査実施箇所の一部追加を行う。調査執行体制及び予算の範囲内で、優先順位を付けて実施する。

(1) 調査の主な目的

ア 上段部と下段部の堆積状況の比較

イ 天守台とその他の部分での石垣構築手法の比較

ウ 戦後火災整理層（1b 層）の堆積状況把握と内堀石垣との関係性の確認

エ 石垣構築時の地上遺構（排水溝等）の確認

想定される調査成果から、調査箇所の優先順位は地点①→⑤の順で考えている。

(2) 史跡保護の観点から、非発掘手法による探査等の調査も併用し、効果的な情報取得を図る。

(3) 令和 6 年度の出土遺物は、令和 7 年度に整理作業に着手する。明らかになった内容については、取りまとめ次第、各委員へ報告する。

(4) 令和 7 年度の発掘調査は、秋からの実施を予定している。